

### 地域交通活性化協議会

6月28日、役場で町内の公共交通の課題と対策などを話し合う第18回町地域公共交通活性化協議会(会長・松岡市郎町長)が開かれました。



関係機関約40人が出席しました。松岡町長は「せんとびゅあオープン」によってバス路線の便をどう図るのか、増便の要望が出ている」という課題も提示、町営スクールバス3線の東川農協前停留所は、道道旭川旭岳温泉線(基線道路)から「せんとびゅあII」敷地内に新設した引き込み道路に移設することを了承しました。

幹線公共路線バスの旭川電気軌道からは、「JR旭川駅―旭岳ロープウェイ」を結んで運行している「いで湯号」について、10月1日から旭川市内ホテルに始発変更することを報告。併せて11月の冬ダイヤ改正を目的に、従来の道の駅・道草館前停留所は、道草館正面入り口前ロータリー内に移動することとしました。

東交ハイヤーの乗り合いタクシーは、本年度から1便増の全7便とし、道草館前出発6便は、6便「同2時15分」と6便「同3時15分」に分けて1便増えました。2便以降の乗り合い予約は条件付きながら当日予約もできるようにになりました。スクールバスは「東忠別線」「北忠別線」「東雲・上岐登牛線」

### 消防団、備え万全総合訓練

6月24日、大雪消防組合東川消防団(林克政団長、5分団89人)が東川中学校と周辺の町道で消防総合訓練大会(大会長・松岡市郎町長)を実施しました。

農家、商店主、事業所など民間人で組織している町内消防組織が年1回



行っている総合訓練です。今年は77人が参加しました。前日の雨天から天候が回復し、小隊訓練、ポンプ車応用操法、同中学校前のせせらぎ通りでそろって一斉放水展示を実施して操作手

### 平和の誓い、町民慰霊祭

7月7日、町社会福祉協議会(桑原良一会長)は町郷土館横の平和と開拓の碑で東川町慰霊追悼式を開きました。



遺族会、社会福祉団体、町内の自治振興会代表などから約100人が出席しました。松岡市郎町長は「戦没者213柱、開拓先人249柱の知恵と労苦を受けて戦後73年を迎えました。その間経済発展に恵まれ、自由を謳歌(おうか)する時代を迎えました。先人の功績を称えて東川町124年の歴史を新たに、今後の町の繁栄と平和を祈念します」と追悼しました。

開拓の碑は、1894(明治27)年の入植以来町発展の礎となった開拓功

小の児童は道草館前で一小太鼓を披露しました。協賛行事として錬成館で慰霊祭記念剣道大会、農村環境改善センターでは芸能発表会、文化ギャラリーで俳句、陶芸、写真作品展示、ふるさと交流センターでは囲碁大会も開き、町内各文化団体の活動ぶりを紹介発表しました。

### 平和の誓い、中国人殉難烈士慰霊祭

7月7日、中国人強制連行事件殉難烈士慰霊碑管理委員会(代表委員・外山弘美東和土地改良区理事長)は東14号共同墓地で中国人強制連行事件殉難烈士慰霊祭を行いました。



追悼文を読む外山代表委員

東和土地改良区、旭川日中友好協会、東川町、旭川市、旭川華僑協会、教育大旭川校留学生ら約60人が出席し、改めて日中平和を祈念しました。

外山代表委員は、先の第二次世界大戦(太平洋戦争)が引き起こした日中の不幸な戦争の歴史を改めて振り返りました。

「数十万人に上る中国人民が軍俘虜(ふりよ)収容所に送られ、その中の4万人が強制連行によって日本に送られ、当地でも敗戦の前年1944年9月に338人の強制連行事件がありました。

農業用水の水温上昇施設としてかんがい用水池を建設するために劣悪な労働条件、過酷な重労働で中国人が使役されました。連行途中で死者34人、到

### 薬師寺・大谷副執事長の「よりの縁」

6月27日、農村環境改善センターで、町PTA連合会など主催の奈良・薬師寺、大谷徹装(てつじょう)副執事長の講演会が開かれました。



う名前の物差しをもっている。その目盛りの幅はみんな違うから、幅が大きく違うと仲良くなれない。好き、嫌いという自分の感情があつて、一度トラブルが起きると、人間関係は坂道を転がるように悪くなる。人間関係を作るにはどうしたらいいか」と解決策を提示し、「私たちが出会っているのは、すべて『よっぽどの縁』。縁がなかったら出会っていない。縁がなかったら夫婦にならない。縁がなかったら親子にならない」などと縁という結びの大切さを話しました。

### 親子で歓声、キッズバイク大会

6月24日、キトウシ森林公園で第7回北海道キッズバイクカップひがしかわ大会が開かれました。

旭川市内を中心に町内、東神楽、美瑛、上富良野など近郊町、さらに札幌千歳など遠くから2歳から6歳未就学児まで307人の幼児がエントリーしました。公園内の貸し別荘ケビンやキャンプ場に前日から泊まって休日



キャンプ、バーベキューを満喫した一家もいっぱい。回を重ねることに自分の自転車に参加する子どもたちが増え、今年3分の2の参加者が持ち込み車検を受けて出場しました。コースは2、3歳児50歳と4、5、6歳児150歳の芝2コース。年中、年長の子供たちはコースの途中に2カ所の登坂難所ポイントを設けましたが、日ごろ十分に乗りこなしている子どもたちも増え、登坂コースも難なくクリア。パパ、ママばかりでなく、おじいちゃん、おばあちゃんの声援も多くなって、カメラやビデオを回す姿も増えました。